

長久手の魅力 1枚にぎゅっと

まちの魅力発信に一役。長久手市の愛知淑徳大の学生有志5人が、市内の飲食店や観光スポットをまとめたプリントを作り、同大の学生に配り始めた。キャンパスがあるまちのあれこれを、若い感性で順次取り上げていく予定だ。(伊藤ちとせ)



大学近くのカフェを取り上げた第1弾

愛知淑徳大生 店や名所を取材、編集



作成したプリントを手にする鎌野さん(左)と鈴木さん=長久手市片平の愛知淑徳大で

分かりやすく好評、追加印刷

昨年末、学生にボランティア活動などの紹介をする同大コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)に、市観光交流協会が協力を求めたのがきっかけ。「長久手を盛り上げる活動を」と学生を募ったところ、5人が応じた。

市内の飲食店や観光地を調べて、どこを紹介するかを決定。第1弾は、同大から徒歩20分ほどの場所にある、空き時間や放課後に立ち寄りやすいカフェ「和nodoca」を選んだ。学生たちは今年2月、取材で店を訪れ、2時間にわたって「抹茶のシフォンケ

」に市内の飲食店や観光地を調べて、どこを紹介するかを決定。第1弾は、同大から徒歩20分ほどの場所にある、空き時間や放課後に立ち寄りやすいカフェ「和nodoca」を選んだ。学生たちは今年2月、取材で店を訪れ、2時間にわたって「抹茶のシフォンケ

ーキーなどお薦めのメニューや内部の写真を撮影。自分たちで編集し、A4のプリント1枚に「長久手の自然を感じられる温かい空間」などと感想をまとめた。用意したのは約50枚。完成した6月ごろからCCCに置いたところ、追加で印刷が必要になるなど好評だった。メンバーの一人、人間情報学部2年の鈴木佑維菜さん(20)は「みんなで感想を出し合って、どうしたら簡潔で、分かりやすい説明にできるかを考えた」と話す。

2週間に1回ほどのペースで話し合い、1カ月半、2カ月に1回、取材に出かけている。今月中の完成を目指す第2弾は「ながくてクテク」と題し、農産物直売所「あぐりん村」を紹介する予定。同学部3年の鎌野夏帆さん(21)は「将来的には学内に限らず、もっと多くの人に長久手のよさを伝えたい」と意気込んでいる。

2024年8月10日(土) 中日新聞朝刊16面より
この記事は中日新聞社の承諾を得て掲載しています。

愛知淑徳大生5人が 児童向けに防犯教室

愛知署一日警察官

愛知署は9日、愛知淑徳大(長久手市)の防犯ボランティア団体の5人に一日警察官を委嘱した。5人は同市前熊下田の「長久手温泉ごさろっせ」で小学生を対象にした防犯教室を開き、犯罪や事故への警戒を呼びかけた。

一日警察官を務めたのは、3年で代表の森川菜々美さん、木村真那さん、永井真心さん、2年の前田望結さん、宮川七海さん。ボランティア団体「tASUkeai(たすけあい)」に所属し、市内で防犯教室を開くなどしている。

同署で倉島正彦署長から委嘱状を受け取った森川さんは「自分たちの啓発活動が防犯や連れ去り被害の防止につながれば」と述べた。続いて長久手温泉で、同市北小学校防犯少年団の10人を対象に防犯教室を開催。知らない人について行かないことなどを伝え、その後には一緒に特殊詐欺被害防止の啓発チラシを配るなどした。



2024年8月10日(土) 中日新聞朝刊16面より
この記事中日新聞社の承諾を得て掲載しています。